

1 目指す学校像

スクール・ミッション

「自律自修」の精神に基づき、真理と正義を愛し、広く深い教養を身に付け、心身ともに健康で明朗な生徒を育成します。中高一貫教育校として、6年間の指導計画や探究活動を通じて、高い学力を身に付けさせるとともに、豊かな言語能力と望ましい職業観、高い志と世界的視野をもった人間性豊かな生徒を育成します。

スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ・激変することが予測される未来社会を切り拓き、生涯に渡って探究を深める未来の創り手となる人
- ・自らの未来を切り拓く意欲と行動力を持ち、リーダーとして活躍できる人
- ・広く深い教養と知性を身に付け、社会に貢献しようとする高い志と使命感を持った人
- ・健やかな心と体を持ち、世界的視野をもって国際社会で活躍できる人

(2) カリキュラム・ポリシー

- ・6年間を見通した一貫したカリキュラムを編成し、高い学力を確実に身に付ける指導
- ・大学入試共通テスト6教科8科目及び難関国公立大学等の二次試験に対応したカリキュラム編成
- ・「授業を大切に」を基本方針として、思考力や判断力を重視した教科指導
- ・グループ活動やスピーチ・プレゼンテーションを通して豊かな言語能力を育成する対話的な学び
- ・人間としての在り方・生き方を考え、望ましい職業観・勤労観を培い、職業を通して社会に貢献する志や使命感を育成する探究型の教育

(3) アドミッション・ポリシー

- ・本校の教育方針を理解する生徒
- ・身近な社会生活の中から課題を見出し、思考・判断することができる生徒
- ・自分の考えを論理的かつ適切に表現することができる生徒
- ・知的好奇心が豊かで、社会への関心が高い生徒

2 中期的目標と方策

(1) 6年間を見通した組織的な進路指導

進路部主導で、学年や教科と連携し、定期考査、外部模試等の結果を分析し、卒業までの学力到達度を踏まえた指導を組織的・継続的に行う。特に実力考査に代えて、外部模試等の結果を分析し、進路・学年・各教科が学年集会等で指導するとともに、進学情報の提供や生徒面談・保護者面談等を活用しきめ細かな指導を行う。

(2) 「チーム両国」としての進学実績の向上

授業を大切にするために、外部教育機関を有効に活用した授業法や教材研究等の改善を図るとともに、組織的・継続的なきめ細かな補習・講習を実施することなどにより、難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格する学力を身に付けさせ一層の進学実績の向上を図るなど、「チーム両国」として全校的な進学指導を強化する。

(3) 特別活動の充実・発展

部活動・学校行事、委員会活動の活性化により生徒の自主性・社会性を培い、学習との両立を図らせ、知・徳・体の調和のとれた生徒、リーダーシップの発揮できる生徒を育成する。

(4) 広報活動の推進

両国高校及び附属中学校それぞれの取組や中高一貫校としての教育活動の魅力について、年間を通して積極的な広報活動に努める。

(5) 国際理解教育・国際交流の推進

東京都の英語教育研究推進校及び海外学校間交流推進校として、国際交流委員会や学年が連携し国際理解教育・国際交流を進めるとともに、附属中学校3年生によるスタディーツアーin ユタ（海外研修）や高校でのスタディーツアーin カンボジア（海外研修）のプログラムを推進する。

(6) 研究部による探究活動の実践研究

附属中学校での「卒業研究論文」の作成を進めるに当たっては、「総合的な学習の時間」やSTEAM教育の取組を通して、生徒の興味・関心に応じた個人的課題の解決をテーマとして設定し、研究の基本的方法を学習しながらその解決策を模索しまとめ、高校段階での探究的活動の基礎や素養を身に付けさせる。

高校卒業後の進路を見据えて、2年次最後に「探究報告書」の作成を進めるに当たっては、1年次より「総合的な探究の時間」を中心に、興味・関心に応じた地域的課題や社会的課題の解決をテーマとして設定し、その解決をグループでの議論や、課外活動の取組等を通じて深め、まとめる活動を行い、その成果を校内だけでなく、校外のコンテスト等で発表し外部評価を受けることで、本校での「志学」の集大成とする。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

- ア 定例化した教科主任会を活用し6年間の効果的な指導計画を立案するとともに、教職員の共通理解を深めさらなる授業力向上を図る。
- イ 各学年+1時間以上の自宅学習を目標に掲げ、基礎・基本を修得させ、定期考査等により、基礎学力定着状況を定期的にチェックするとともに、発展的な内容の学習にも取り組み応用力を育成する。また、高校3年生では生徒の進路希望の実現のための組織的・計画的な補習・講習体制を計画・実施する。
- ウ 英語、数学において習熟度別授業を実施し、習熟の程度に応じた学力向上を図り、個別最適な学びを推進する。
- エ 各教科での学力の基盤となる「言語能力」の育成に組織的に取り組むとともに、生徒が能動的に学習する「主体的・対話的で深い学び」を推進する。また、読書活動を推進し、読解力や知識を身に付けさせるとともに、論理的な思考力や集中力を身に付けさせる。
- オ 放課後、土曜日、長期休業日における補習・講習をより一層充実し、生徒一人一人の学力の伸長を目指す。また、都と連携し外部人材を活用した補習指導体制を強化する。
- カ 附属中学校では、学力推移調査等を、高校では、外部模試等の意義を生徒に理解させ、学年・教科・進路部は分析結果を学年集会等の指導を通して生徒に還元するとともに、6年間の経年変化を把握し、丁寧できめ細かい指導を継続する。
- キ 附属中学校では、STEAM教育等を活用して「総合的な学習の時間」を充実させるとともに、高校の「総合的な探究の時間」への接続を図る。
- ク 「生徒による授業評価」を分析して改善策を検討し、分かる授業、質の高い授業を展開する。
- ケ 学校運営連絡協議会による学校評価アンケート調査の結果の分析や、管理職による授業観察での助言等を参考にして、授業力向上に係る課題を整理・改善する。
- コ 中高一貫教育校としての中高の接続を考えた教育課程を編成し、発展的な指導を含め6年間を見通した学習指導体制を強化する。
- サ 教員相互の授業参観を活性化するとともに、学びを深める授業や学びを保障するためGIGA端末等やICT機器の活用を推進する。

- (2) 進路指導
ア 生徒が活用しやすい「進路の手引き」「進路指導資料」及び「キャリア・パスポート」を作成し活用する。
イ 生徒・保護者との面談をきめ細かく実施するとともに、後援会や淡交会と連携した進路懇談会、体験講話などを一層充実し、生徒のキャリア教育を推進する。
ウ 進路部主導で学年との連携を強化し、教員・生徒・保護者に「進路だより」の定期的発行を通して適切な進学情報の提供、本校卒業生による「進学講演会」を実施し、進路意識の高揚につなげていく。また、生徒が活用しやすいよう進路指導室に常駐の教員を配置し、生徒の進学にかかる面接指導等を丁寧に行う。
エ 外部模試等のデータを蓄積するとともに、その結果を学年集会や生徒面談等に活用し生徒一人一人の学力を伸長させる。
- (3) 生活指導
ア 附属中学校と高校が連携し、挨拶指導、制服着用指導、頭髮指導、遅刻指導などを組織的に実施する。
イ 交通ルールの遵守、登下校時のマナー向上の指導を徹底するなど、交通安全教育を強化する。
ウ 通常の清掃活動の徹底とともに、校内美化活動を徹底する。
エ 学年・クラス・部活動・生徒会単位でのボランティア活動など、奉仕体験活動の推進に取り組む。
オ スクールカウンセラーや特別支援教育センター校の中野特別支援学校等の外部機関などと連携した相談体制を強化する。
- (4) 特別活動・部活動
ア 学校行事では、体育祭を室内で企画するなどの新たな取組を活用することで、生徒会活動・委員会活動などを一層充実発展させる。
イ 部活動を充実させ、加入率の向上を図るとともに、学習との両立を図らせる。また、部活動の活動目標と年間指導計画を作成し、年間計画に従った計画的な部活動を展開する。
ウ 附属中学校3年生におけるスタディツアーin ユタ（海外研修）の充実とともに、6年間を見通した高校までのスタディツアー（海外研修）を検討する。また、英語によるディベート大会やスピーチコンテスト等に挑戦させることで英語学習の成果や評価を確認する。
- (5) 健康づくり
ア 「学校保健計画」に従い、保健担当と分掌・学年・教科との連携協力を強化し、生徒の健康づくりに計画的・組織的・継続的に取り組む。また、教育相談・特別支援教育研修会や壮大学年会を実施するとともに、特別な配慮を要する生徒の支援体制を整える。
イ 生徒保健委員会、学校保健委員会及び特別支援教育委員会の活動内容をより充実発展させる。
ウ 給食指導や家庭科での食に関する学習や経験を通して、食や健康への関心を育み健康的な生活を送る姿勢を育む。
- (6) 防災教育
ア 「防災教育推進委員会」を年間2回開催し、地域や消防署等との連携による、体験的、実践的な防災教育を推進するとともに、防災訓練の充実・発展につなげていく。
イ 地域の防災訓練へ生徒・教職員を派遣し、地域とのかかわり、社会貢献への意識高揚に努めさせる。
- (7) 広報活動
ア 総務部を中心に学校見学会や学校説明会等の広報活動を充実させるとともに、体験授業など本校の教育活動を理解する取組みを企画・実施する。また、会の進行や受付・誘導・案内などの業務を生徒会生徒や附属中学生のボランティア等の主体的参加を促し実施する。
イ 両国祭（文化祭）での、附属中学生による「進学相談」「学校PR」等のさらなる充実を努める。
ウ 広報活動の充実のためにホームページの積極的な活用を図り、随時更新し情報発信を行う。
- (8) 組織体制
ア 企画調整会議を毎週1回、職員会議を毎月1回行い、円滑な学校運営を行う。
イ 教科主任会議を活用し、他教科との連携を図るとともに、教科の教育力や学校の教育力・進路指導力の向上に努める。
ウ 各種講習が円滑に実施できるよう、各学年、各教科及び各分掌間の連携・協力関係を強化する。
エ 各学年・分掌・教科でのケーススタディーを活用したOJTをより一層推進し、人材育成に努める。
オ 経営企画室の経営参画を推進するため、担当者説明会や研修会を通して、進行管理を適切に行うとともに、円滑な教育活動に努める。
- (9) その他
ア 施設・設備について老朽化の進んでいる場所の修繕を進めるとともに、エレベーター改修等が円滑に進むよう全校体制で取り組む。
イ 公開講座の充実、グラウンド開放等を積極的に実施し、開かれた学校づくりに努める。

4 重点目標と方策

- (1) 学力伸長の強化
ア 高校では、学習状況等を個人データファイルにまとめ、個々の生徒指導に活かすとともに、放課後の講習・夏期講習等を強化する。また、個別最適な学びに応じた講座を開講し、個々の生徒の学力向上を図るとともに、習熟の高い生徒の学力を向上させる。
イ 附属中学校では、定期考査や学力推移調査等における学力状況の把握・分析・検証を行い、授業改善や指導体制整備に活用する。
ウ コンクール・コンテスト等に積極的に参加させ外部評価を活用することで、生徒の学力を伸長させるとともに、指導力の向上に生かす。
- (2) 難関国立大学・国公立大学へのチャレンジを支援する。
放課後講習、土曜日・長期休業日の講習等を強化し学力向上を図るとともに、きめ細かな進学相談を実施することで予備校等に頼らない、生徒の難関国立大学・国公立大学へのチャレンジを支援する。
- (3) 広報・募集活動のさらなる充実
総務部を中心に、これまでの授業公開、学校見学会・説明会に加え、体験授業や学習塾対象説明会等の新しい広報活動を企画・実施することで、小学生・保護者に対する広報・募集活動の充実を図る。
- (4) 礼節指導の徹底
朝の挨拶指導はもとより、相互の挨拶、来校者に対する挨拶指導を徹底する。セーフティ教室や登下校のルールやマナー遵守の組織的な指導を徹底する。そして両国生として品格のある立ち居振る舞い・挨拶・言葉遣い等を、全教職員できめ細かく指導する。
また、ボランティア活動に積極的に参加させることにより、他者を思いやる心と地域や集団の中での自助・共助を身に付けさせる。
- (5) 中高一貫教育校の交流
東京都公立中高一貫教育校11校における、部活動の大会や生徒会の相互交流などを実施する。

〔数値目標〕

- ① 長期休業日等における講習、延べ160回、受講者2000人以上を目指す。
- ② 生徒による授業評価において、生徒の授業理解度95%以上を目指す。
- ③ 部活動加入率90%以上を目指す。
- ④ 英語検定において、附属中学校3年生までに準2級に85%以上、2級に40%以上の合格をそれぞれ目指す。
- ⑤ 国公立大学の現役合格者数45名以上、難関国立大学・医学部の現役合格者数20名以上を目指す。